

1. 看護栄養学部

◎ 教育目的

「建学の精神」に基づき、本学部看護学科と栄養学科を設置し、「健康」と「生活」という共通概念を基盤にして、人々の健康の回復と保持・増進、疾病予防、あるいは平和な死への援助を実現するため、それぞれ独自のアプローチを持ちながら、連携・協働して地域社会に貢献できる専門職業人の育成を目的とします。

そのため、看護・栄養の専門職性と豊かな個性と創造性の伸長を目指します。

2. 看護学科

(1) 教育目的

キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を、自律して実践できる人間性豊かな専門職者を育成する。

(2) ディプロマ・ポリシー (2020年度以降入学生対象)

◎ 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

看護学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」(看護学)を授与します。

1. キリスト教的人間観に基づき人間を全人的に理解する能力

愛をとおして、人間を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな統一体として理解できる。

2. 環境と健康との関わりを理解する能力

人間を取り巻く環境と健康の課題について、専門的立場から考えることができる。

3. 倫理に基づいて対象者を擁護する能力

対象者の人権擁護を基本として、倫理的感受性を磨き、倫理的課題を発見して対応できる。

4. 根拠に基づいて実践する能力

看護学の専門的知識を活用し、健康問題・課題の解決に向けて、科学的根拠と論理的思考に基づいた看護ケアを安全・安楽に提供できる。

5. ヘルスケアシステムにおいて多職種とのコミュニケーションを通して連携・協働する能力

ヘルスケアシステムおよび他の専門職の役割を理解し、円滑な人間関係を築いて目標に向け協働できる。

6. グローバルな視点を持ち、社会や他者に貢献する能力
幅広い教養とグローバルな視点をもとに、多様な環境下で生きる人々に対し、看護専門職の役割を理解したうえで自発的に行動できる。
7. 専門職者として研鑽し続ける能力
社会の変化への対応や看護の質の改善に向け、自律して学び続けることができる。

(3) カリキュラム・ポリシー (2020年度以降入学生対象)

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法、教育評価の3つの観点から定める。

1. 教育課程の編成・教育内容

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を具現化するために、「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」「教養教育科目群」「専門教育科目群」「統合発展科目群」の4つの科目群からカリキュラムを編成する。

1) 「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」

キリスト教的人間観に基づき、他者に関心をもち人間を全人的に理解する科目を置く。加えて、他者に仕えていくための愛を育み、社会に貢献する姿勢を培う科目を置く。

専門職、プロフェッショナルリズム(プロ意識、専門職業人が持つべき態度・価値観)について学び、自己について内省すること、主体的に自己のキャリアデザインを考えることを通して、看護専門職者としてのアイデンティティを培う科目を置く。

2) 「教養教育科目群」

高大接続を踏まえ、入学時までには育んできた「学力の3要素」(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)をさらに伸長し、広く社会に貢献できる資質・能力を培う教育内容とする。本科目群は、「共通基礎教育科目」「共通教養教育科目」より構成される。

(1) 「共通基礎教育科目」では、4年間の学修の基礎となる知識や技能、論理的思考力や問題解決能力を培うための科目を置く。加えて、国際性を重視する観点から、外国語によるコミュニケーション能力を培う科目を置く。

(2) 「共通教養教育科目」では、人類の文化や社会に関する幅広い知識を身に付け、社会規範意識や倫理観を養い、豊かな感性と美意識、主体的に考え行動する力を培うための科目を置く。

3) 「専門教育科目群」

看護の実践に必要となる専門的知識、技術を修得し、論理的思考、問題解決能力、多職種と連携・協働する能力を培う教育内容とする。本科目群は、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」より構成される。

- (1) 「**専門基礎科目**」では、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識、人を取り巻く自然環境・社会的環境と健康の課題、わが国のヘルスケアシステムを理解するための科目を置く。
- (2) 「**看護基礎科目**」では、看護学の基本概念、看護の役割・機能、基礎的知識を学び、対象者の健康状態を判断する方法と看護過程、コミュニケーションなどの基礎的な技術・生活援助技術・診療介助技術などの看護技術を修得するための科目を置く。
- (3) 「**看護臨床科目**」では、看護学の専門的知識を活用し、対象者の特徴を踏まえ、健康問題・課題の解決に向けて看護を展開するための論理的思考、問題解決能力、安全・安楽に看護ケアを提供する技術、多職種と連携・協働する能力を修得するための科目（臨地実習科目を含む）を置く。

4) 「統合発展科目群」

4年間の学習を統合し、看護専門職者としての将来の発展につながる教育内容とする。グローバルな視点を持ち、多様な環境下で生きる人々への理解と看護活動のあり方について熟考する科目、社会の変化への対応や看護の質の改善、および看護専門職の発展に向け、研究的な視点で看護を探究するための基礎的能力を培う科目、高度実践看護師や保健師など大学院での学びに繋がる科目を置く。

2. 教育方法

- 1) 大学における学修への円滑な移行に必要な初年次教育を実施する。
- 2) ディプロマ・ポリシーで示した 7 つの能力の修得を意識して学習を進められるよう、「カリキュラム構成図」や「履修モデル」を提示し、履修指導を行う。
- 3) ディプロマ・ポリシーで示した 7 つの能力を修得できるよう、かつ学生が主体的に学び、学習の積み重ねが可能となるような教育方法を用いる。アクティブ・ラーニング型授業を展開し、授業科目の内容を踏まえて、事前・事後課題の提示、グループワーク等の効果的な方法を用いる。
- 4) 知識を活用してアセスメントし、必要な看護ケアを立案・実践する能力を養うために、シミュレーション教育や少人数教育を行う。
- 5) 学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。
- 6) 自己の学修成果や学生生活での体験を俯瞰し、自身の成長を確認していけるよう、ポートフォリオを作成し、活用する。

3. 教育評価

- 1) 授業科目毎に、講義・演習・実習等の科目の特徴を踏まえた評価方法により、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の観点を含め、多面的に成績評価を行う。実習科目は、設定された実習目標の達成度を、評価基準に基づいて評価する。
- 2) 1～3年次の終了時および卒業時に、カリキュラム・ルーブリック（ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力を、能力毎にレベル1～4の段階で表したもの。）に基づいて、各能力の修得状況を評価する。
- 3) 科目毎の授業評価アンケート、および各学年終了時にカリキュラム評価アンケートを実施し、学生の授業やカリキュラムに対する評価と意見を把握することで、カリキュラムの見直しと改善を図る。

2.1 看護学科(2019年度以前の入学生)

(1) 看護学科のディプロマ・ポリシー(2019年度以前の入学生対象)

看護学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」(看護学)を授与します。

- 1) キリスト教的人間観に基づき、人間を全人的に理解し、多様な健康レベルにある人々の健康問題・課題の解決に取り組む能力
- 2) 保健医療福祉システムを理解し、多様な組織・社会において、他の専門職者と協働できる能力
- 3) 社会における政治的・経済的・文化的システムを理解し、柔軟に適応しながら環境を調整する能力
- 4) 対象の人権を擁護し、倫理的配慮に基づき、看護専門職者として、責任・役割を果たす能力
- 5) 国際的な広い視野と多様な環境下で生きる人々への看護実践について理解を深め、社会貢献できる能力

(2) 教育課程の構成

2012年度以降入学生の教育課程は、キリスト教的人間観と高い実践能力を持つ看護師の養成に特化しています。

専門教育科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に区分されています。

1) 専門基礎科目

「学部共通専門基礎科目」に加えて、看護実践の基礎として必要な科目が編成されています。

① 身体のしくみ

主に身体的な健康生活を扱います。身体の構造としくみ、栄養と代謝、健康と免疫、健康と病理、病気と治療、看護に必要な薬理を学びます。

② 健康支援と社会保障制度

社会生活と健康の関連を、人々が所属する場の集団特性との関係から理解した上で、保健医療福祉システムに関わる法、医療経済、諸制度などを学習し我が国における保健医療福祉活動の現状と課題を考えます。

③ ヒューマンケアの基礎

『生涯発達論』で人間の誕生から老年までの「成長発達・加齢」の原理と発達課題を学

習し、人生の中で遭遇するさまざまな危機と健康との関連を学びます。また、文化と生活、生活環境と健康の関わりを科学的に学習し、保健医療福祉の現場で遭遇する現象を人間関係論的観点、倫理的観点、文化人類学的観点から学ぶために、『人間関係論』『医療と倫理』や『医療人類学』（選択科目）を配置しています。

2) 専門科目

専門科目は「看護学の基礎」「看護援助方法論」「看護の実践」および「看護学の統合と発展」「人間形成とキャリアデザイン」に区分されています。

① 看護学の基礎

『看護学原理』では、看護の本質と看護学を構成する、人間・環境・健康・看護について講義と演習により学習します。『看護ケア提供システム論』は、看護ケアが提供されている場を実際に体験し看護の役割・機能を学習します。

『基礎看護技術論Ⅰ～Ⅳ』では、看護学を展開する上で共通する安全、コミュニケーション、健康教育などの基礎的な技術、生活援助技術、診療介助技術などを講義と演習により学習します。『ヘルスアセスメント』は、健康状態を判断する方法について講義と演習により学びます。

② 看護援助方法論

看護援助方法論では、看護学の基礎を土台として多様な場で生活している人間（個人・家族・集団）のライフサイクル各ステージの特徴の理解と健康レベル（健康の保持・増進、健康の回復、急性・慢性状況やターミナルなど）に対応した健康生活への実践能力を養う科目が編成されています。

科目は看護領域別に、『成人看護学Ⅰ～Ⅳ』『老年看護学Ⅰ～Ⅲ』『小児看護学Ⅰ、Ⅱ』『母性看護学Ⅰ、Ⅱ』『精神看護学Ⅰ～Ⅲ』『在宅看護論Ⅰ、Ⅱ』に分かれています。

また、『家族看護学』『リハビリテーション看護学』（選択科目）『感染看護学』（選択科目）を配置し、さらに、卒業後のキャリア発達（保健師・助産師・専門看護師等）につながる科目として、『地域看護学』『ヘルスプロモーション活動論』（選択科目）『ホスピス・緩和ケア論』を設けています。

③ 看護の実践

基礎看護学レベルの実習を、『基礎看護学臨地実習Ⅰ』（1年次）、『基礎看護学臨地実習Ⅱ』（2年次）として置き、病院や施設で学習します。また、看護領域別の臨地実習が多様な場で体験あるいは看護展開できるように計画されています。さらに、『統合看護臨地実習』（4年次）では、複数患者の受け持ちや夜間における看護を体験し、看護チームの役割についても学習します。

④ 看護学の統合と発展

これまでに学習した内容を統合し、かつ看護専門職の発展に貢献する能力を養う科目として以下の科目を配置しています。

本学の教育理念の浸透を図るため『生と死の看護ゼミ』では、生と死に関わる問題を多面的に検討し、自己の死生観、看護観を深めます。『看護研究の基礎』では、研究成果を活用する方法論を学習します。また、『事例研究』での学習プロセスを通して、科学的・論理的に思考する能力や探求心を養います。実践面においては『統合看護技術演習』で看護技術を適切に実施するための能力を養います。

このほか、倫理的な考え方や問題検討の方法を学ぶ『看護倫理』、看護組織論を基にリーダーシップやマネジメントを学ぶ『看護管理』、保健医療チームの一員である看護職者・管理栄養士の専門性を追求し、チームで連携・協働する意義を学ぶ『栄養・看護演習』を必修科目として配置しています。

また、各自の進路・興味関心に沿ったより発展的な学びができるよう、『看護英文講読』『看護教育学』『国際医療援助論』『災害医療援助論』『合同特別演習』を選択科目として配置しています。

⑤ 人間形成とキャリアデザイン

専門職を目指す者として、自らを振り返る機会や専門職者としてのあり方を学ぶことを通じ、専門職者としての生き方や将来を見据えたキャリアデザインについて考える科目として、『人間形成とキャリアデザインⅠ～Ⅲ』を配置しています。

以上の内容が学習者の責任において自覚され、批判的、主体的に学ぶよう期待されています。

3. 栄養学科

(1) 教育目的

人々の健康の保持・増進、健康の回復に向けて、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる専門的能力を養う。

(2) ディプロマ・ポリシー (2020年度以降入学生対象)

◎ 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

栄養学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復に向けて、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる人間性豊かな専門職者を育成し、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」(栄養学)を授与します。

1. キリスト教的人間観に基づき人間を全人的に理解する能力

愛をとおして、人間を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな統一体として理解できる。

2. 環境と健康との関わりを理解する能力

人間を取り巻く環境と健康の課題について、専門的立場から考えることができる。

3. 倫理に基づいて対象者を擁護する能力

対象者の人権擁護を基本として、倫理的感受性を磨き、倫理的課題を発見して対応できる。

4. 根拠に基づいて実践する能力

栄養に関連する専門的知識を活用し、健康に関する問題や課題の解決に向けて科学的根拠と

論理的思考に基づいた栄養管理を安全に行うことができる。

5. ヘルスケアシステムにおいて多職種とのコミュニケーションを通して連携・協働する能力

ヘルスケアシステムおよび他の専門職の役割を理解し、円滑な人間関係を築いて目標に向け

協働できる。

6. グローバルな視点を持ち、社会や他者に貢献する能力

幅広い教養とグローバルな視点をもとに、多様な環境下で生きる人々に対し、管理栄養士の

役割を理解したうえで自発的に行動できる。

7. 専門職者として研鑽し続ける能力

社会の変化への対応や栄養管理の質の改善に向け、自律して学び続けることができる。

(3) カリキュラム・ポリシー (2020年度以降入学生対象)

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法、教育評価の3つの観点から定める。

1. 教育課程の編成・教育内容

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を具現化するために、「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」「教養教育科目群」「専門教育科目群」「統合発展科目群」の4つの科目群からカリキュラムを編成する。

1) 「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」

キリスト教的人間観に基づき、他者に関心をもち人間を全人的に理解する科目を置く。加えて、他者に仕えていくための愛を育み、社会に貢献する姿勢を培う科目を置く。

専門職、プロフェッショナルリズム(プロ意識、専門職業人が持つべき態度・価値観)について学び、自己について内省すること、主体的に自己のキャリアデザインを考えることを通して、管理栄養士としてのアイデンティティを培う科目を置く。

2) 「教養教育科目群」

高大接続を踏まえ、入学時までには育んできた「学力の3要素」(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)をさらに伸ばし、広く社会に貢献できる資質・能力を培う教育内容とする。本科目群は、「共通基礎教育科目」「共通教養教育科目」より構成される。

(1) 「共通基礎教育科目」では、4年間の学修の基礎となる知識や技能、論理的思考力や問題解決能力を培うための科目を置く。加えて国際性を重視する観点から、外国語によるコミュニケーション能力を培う科目を置く。

(2) 「共通教養教育科目」では、人類の文化や社会に関する幅広い知識を身に付け、社会規範意識や倫理観を養い、豊かな感性と美意識、主体的に考え行動する力を培うための科目を置く。

3) 「専門教育科目群」

管理栄養士の実践に必要となる専門的知識、技術を修得し、理論的思考、問題解決能力、多職種と連携・協働する能力を培う教育内容とする。本科目群は、「専門基礎科目」、「専門科目」より構成される。

(1) 「専門基礎科目」では、社会・環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成り立ち、食べ物と健康の3分野から構成し、人を取り巻く自然環境・社会的環境と健康の課題、食品と栄養に関わる専門知識を理解するための科目を置く。

(2)「専門科目」では、栄養の基礎、栄養の教育、栄養の実践、学外実習の4分野から構成し、管理栄養士として根拠に基づいて実践する能力や、多職種との連携・協働する能力、社会や他者に貢献する能力、専門職として研鑽する能力を身に着けるための科目を置く。

4)「統合発展科目群」

4年間の学習を統合し、管理栄養士として将来の発展につながる教育内容とする。

グローバルな視点を持ち、多様な環境下で生きる人々に対し、管理栄養士の役割を理解したうえで自発的に行動できる能力、社会の変化への対応や栄養管理の質の改善に向け、自律して学び続けることができる能力を身に着けるための科目を置く。

5)「教職科目」

栄養教諭一種免許状の資格を得ることができる科目を、1年次から4年次まで段階的に配置する。

2. 教育方法

- 1) 大学における学修への円滑な移行に必要な初年次教育を実施する。
- 2) ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力の修得を意識して学習を進められるよう、「カリキュラム構成図」や「履修モデル」を提示し、履修指導を行う。
- 3) 授業科目の特徴をふまえつつ、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。
- 4) 学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。
- 5) 自己の学修成果や学生生活での体験を俯瞰し、自身の成長を確認していけるよう、ポートフォリオを作成し、活用する。
- 6) 国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの導入、自己学習の推進や結果のモニタリングを行う。

3. 教育評価

- 1) 授業科目毎に、講義・演習・実習等の科目の特徴を踏まえた評価方法により、学力の3要素を含め多面的に成績評価を行う。実習科目は、設定された実習目標の達成度を、評価基準に基づいて評価する。
- 2) 1～3年次の終了時および卒業時に、カリキュラム・ルーブリック（ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力を、能力毎にレベル1～4の段階で表したもの。）に基づいて、各能力の修得状況を評価する。
- 3) 科目毎の授業評価アンケート、および各学年終了時にカリキュラム評価アンケートを実施し、学生の授業やカリキュラムに対する評価と意見を把握することで、カリキュラムの見直しと改善を図る。

3. 1 栄養学科(2019年度以前の入学生対象)

(1) 栄養学科のディプロマ・ポリシー(2019年度以前の入学生対象)

栄養学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復に向けて、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」(栄養学)を授与します。

- 1) キリスト教的人間観により人間を全人的に理解する能力
- 2) 人間を取り巻く「食」を科学的視点から幅広く理解する能力
- 3) 人間栄養学の専門的知識と技術を修得し、人々に貢献する能力
- 4) 人間と環境の相互作用を理解し、対応できる能力
- 5) 社会システムを理解し、社会の変化に柔軟に対応できる能力
- 6) 課題を探究し、判断し、意思決定ができる能力
- 7) 保健医療福祉システムの中で円滑な人間関係を築き、他の専門職者と協力して、目標に向け推進する能力
- 8) 人間愛に基づき専門職者として国際社会に貢献する能力

(2) 教育課程の構成

① 社会・環境(人間や生活)と健康

人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康をどう規定し左右するか、あるいは健康の保持・増進のために社会や環境はどうあるべきか等、社会や環境と健康の関わりについて学習します。

② 人体の構造と機能・疾病の成り立ち

生物科学を基礎に、人間(人体)への理解を深めます。人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、主要疾患の成因、病態、診断、治療の基本的な考え方について学習します。

③ 食べ物と健康

「食」を通して人々の生命と健康生活を支えるために、食品の各種成分を理解するとともに、食品の生育・生産から加工・調理を経て人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対する栄養面や安全面での影響や評価について学習します。

2) 専門科目

専門科目は「栄養の基本」「栄養の教育」「栄養の実践」「学外実習」および「統合科目」に区分されています。

① 栄養の基本

『管理栄養士論』は、これから学ぶ栄養学の学問体系と学習上の心構え、および管理栄養士に求められる資質等について学習します。

『基礎栄養学』は、栄養とは何か、その意義について学習します。健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学習し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を学習します。

『応用栄養学』は、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を学習します。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に学習することにより、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の基本的考え方を学習します。また、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を学習し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について学習します。

② 栄養の教育

『栄養教育論』は健康・栄養状態・食行動・食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養います。また、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質(QOL)の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を学習します。特に行動科学やカウンセリングなどの理論と応用については演習・実習を活用して学習します。さらに身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について学習します。

『栄養に係る教育に関する科目』では、とくに栄養教諭として児童・生徒に対する食の指導の意義や有効な指導のあり方などについて学習します。

③ 栄養の実践

栄養管理の基本および方法論で学んだ内容の応用を『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』の各分野で学びます。

『臨床栄養学』は傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学習します。特に各種計測による評価・判定方法やベッドサイドの栄養指導などについては実習を活用して学習します。

また、医療・介護制度やチーム医療における役割について学習します。さらに、ライフステージ別、各種疾患別に身体状況(口腔状態を含む)や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について学習します。

『公衆栄養学』は地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養います。

また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を学習します。さらに、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて学習します。また、保健医療チームの一員である管理栄養士・看護職者の専門性を追求し、チームで連携・協働する意義を学ぶ『栄養・看護演習』を必修科目として配置しています。

『給食経営管理論』は給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養います。マーケティングの原理や応用を学習するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習します。

『総合演習』は専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養います。

④ 学外実習

『臨地実習』では実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図ります。

⑤ 統合科目

3年次までに学習した内容を統合し、管理栄養士として専門職の発展に貢献する能力を養うために、以下の科目が配置されています。

『食といのちのゼミ』は教育理念に基づく本学独自の特色あるゼミです。

『英文文献講読』では、専門領域に関する文献を読解し、栄養学関連の動向を学びます。

『卒業研究』では、4年間の学習の集大成として各人のテーマにより研究を行います。

<<2012年度以降入学生に適用>>

『合同特別演習』は臨地現場をフィールドとし、他職種との連携や協働や専門職者として必要な能力について看護学科の学生と合同で学修します。学科混成チームを編成し、チームで健康障害をもつ対象者の健康問題についてアセスメントから計画、実施、評価までの実践を通して、コミュニケーション力、問題解決力、協調性、主体性などの能力を修得します。

3) 教職課程科目

教育職員（以下「教員」）免許状授与の所有資格を得るために必要な科目が配置されています。本学栄養学科において取得できる教員免許状の種類は栄養教諭一種免許状です。

必要科目には、栄養専門教育科目や教養教育科目の一部の他、教職課程科目も含まれます。



II 大学院看護栄養学研究科

1. 教育理念

天使大学大学院看護栄養学研究科は、カトリック教育機関として「愛をとおして真理へ」を建学の精神としている。本研究科はこの建学の精神のもと、看護学・栄養学の各専門分野における高度な専門職業人、教育や専門分野のリーダーとなる人材を育成するとともに、人間の「健康」と「生活」の支援に共通する「看護」と「栄養」を組み合わせさせた学修を通して、地域住民の保健・医療・福祉の発展に寄与するものである。

2. 教育目的

天使大学大学院看護栄養学研究科は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の理論及び応用を教授研究し、建学の理念であるカトリック精神に基づく「愛をとおして真理へ」に生き、知的、専門的及び応用的能力を発揮して、人間愛をもって社会の発展に寄与する高度専門職業人を育成することを目的とする。

人材養成に関する目標を次のとおり定める。

- (1) 看護学専攻修士課程においては、看護学に係る最新の知見と高度な専門技術を学修し、保健医療福祉分野の発展に貢献できる高度な専門性を有する人材を育成する。
- (2) 栄養管理学専攻博士前期課程においては、栄養管理学に係る最新の知見と高度な専門技術を学修し、保健医療福祉分野の発展に貢献できる高度な専門性を有する人材を育成する。
- (3) 栄養管理学専攻博士後期課程においては、栄養管理学に係る先端的な教育及び研究を行うことにより栄養管理学の高度の専門知識と技術を教授し、自立して研究活動を行い、卓越した教育上の指導能力を有する人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

(1) 看護学専攻修士課程および栄養管理学専攻博士前期課程

【共通ディプロマ・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観を基盤に専門分野の知識と倫理観を保健・医療・福祉に応用できる。
- ・専門分野において主体的に活動し、関係者と連携・調整を図り、課題解決を推進することができる。
- ・専門分野の高度な知識を身に付け、科学的根拠に基づく総合的判断を研究と実践に適用できる。
- ・専門分野の課題について、研究方法を選択し、研究成果をまとめることができる。

【共通カリキュラム・ポリシー】

天使大学大学院看護栄養学研究科は、学士課程における看護学・栄養学を基礎として、各専門分野における人間の「健康」と「生活」の支援に共通する「看護」と「栄養」を組み合わせさせた学修をとおして、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与することのできる高度な専門職業人と研究者・教育者としての基礎的能力を育成する。看護学専攻並びに栄養管理学専攻のカリキュラムはともに、両専攻共通科目、専門基礎科目、専門科目から構成される。



(2) 看護学専攻修士課程

<修士論文コース>

【ディプロマ・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観を基盤に看護の理念に基づく倫理観をもって、実践・管理・教育・研究ができる。
- ・専門分野の高度な知識・技術を修得し、理論、分析・評価力をもち専門性の高い看護実践ができる。
- ・グローバルな視点を持ち、国内外の研究成果を取り入れ、看護実践・研究・教育に貢献できる。
- ・ケアの質向上のためにシステムを評価し、解決に向けて多職種と連携・協働し、環境を調整できる。
- ・専門分野の課題を洞察し、適切な方法を選択し成果をまとめる基礎的研究能力を身につけている。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・専門性の異なる院生の共通の学修の場をとおして、研究や実践の基礎となる理論や学問を学び、総合的な視野をもった実践の基礎的能力を修得するために、両専攻共通科目を配置した。
- ・高度専門職としての看護の実践と研究、教育を推進できる基礎的能力を養うために、看護理論、看護倫理、看護研究、看護教育、看護管理などの専門共通科目を配置した。
- ・高度専門職としての専門基礎となる知識・技術を修得するために、広範囲な学問領域にわたり必要な科目を専門基礎科目として配置した。
- ・専門領域における高度な看護実践や研究に必要な能力を養うことを目的に各専門領域に特論、演習科目を配置し、看護実践やエビデンスを追求し、学修を深める。
- ・高度専門職として看護の責務を遂行するために、自己の課題を見出し、主体的・継続的に学び、科学的に探究する研究の基礎的能力を修得するために、特別研究を行う。

<ホスピス緩和ケア看護学コース>

【ディプロマ・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観に基づく全人的ケアを実践できる。
- ・各専門分野における倫理的配慮意思決定支援ができる。
- ・専門的なエビデンスに基づく実践・相談・教育ができる。
- ・高度なコミュニケーション能力に基づく多職種連携・調整することができる。
- ・組織変革・政策提言に必要な変化エージェントの役割意識を有している。
- ・基本的な研究能力を有し、課題研究を今後の実践に結び付けて説明できる。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・共通科目 A 群は、看護の実践と研究・教育の基盤となる能力の養うために、看護理論特論、看護倫理特論、看護研究、看護教育特論、看護管理特論、コンサルテーションを配置した。



- ・ 共通科目 B 群は、専門分野の実践の根拠となる基礎的知識を修得のために、基礎科目として、病態生理学、・フィジカルアセスメント、臨床薬理学を配置した。
- ・ 専門分野の専門科目は、専門分野の基礎科目、専門科目における高度な知識・技術・態度を修得し、実践において統合するために専門領域の臨地実習を行う。
- ・ 課題研究は、専門領域特有の課題を研究し、学位論文としてまとめる科目である。

<保健師コース>

【ディプロマ・ポリシー】

- ・ キリスト教的人間観を基盤に公衆衛生看護の理念に基づく倫理観をもって公衆衛生看護ができる。
- ・ 科学的根拠と文化的感受性をもって地域の健康課題を明確にし、関係者と共有することができる。
- ・ グローバルな視点で将来を見据え、地域ケアシステムを評価し、施策化、政策化を提言できる。
- ・ 人々の健康増進能力を高め、複雑な健康課題を解決するために関係者と連携・協働して支援できる。
- ・ 公衆衛生看護実践における課題を見出し、適切な研究方法を選択し、成果をまとめることができる。
- ・ 保健師の責務を遂行し公衆衛生看護の向上を図るために自ら課題を見出し主体的に学ぶ姿勢がある。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・ キリスト教的人間観と公衆衛生看護の理念、看護職としての倫理観のもと公平な看護を自律して実践できる保健師の養成に必要な科目を主体的に学修するプログラムを提供する。
- ・ 人々の健康を多面的にとらえ科学的根拠をもって分析できる力を育成するために、公衆衛生大学院のグローバルスタンダードとされる分野を網羅する専門基礎科目を提供する。
- ・ 個人・家族、集団に対する基礎的支援能力を強化するために、援助過程を論理的に思考し、専門性の高い実践に必要な科目を設定し、実習のプログラムを提供し実践能力を獲得する。
- ・ 地域特性に応じた看護活動を展開できるようになるために、演習と実習を段階的に配置し、地区活動を通して解決に向けた取り組みを住民と協働して実施するプログラムを提供する。
- ・ 保健師としてグローバルな視点で地域の将来を見据え、人々の健康と生活を護るための社会資源の開拓やケアシステム構築、政策提言できる能力を育成するプログラムを提供する。
- ・ 保健師としての責務を遂行するために専門性を高め、自己の課題を見出し主体的・継続的に学び、科学的に探究する能力を育成するために、公衆衛生看護課題研究を提供する。



(3) 栄養管理学専攻博士前期課程

【ディプロマ・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観を基盤に倫理的な配慮を行い、人間の「健康」と「生活」の支援に必要な基礎知識を身に付け保健・医療・福祉に応用できる。
- ・栄養学の専門分野における問題についてグローバルな視点を持って主体的に探究し、連携・調整を図りながら問題解決方法を考えることができる。
- ・栄養学の専門分野における高度な知識を身に付け、研究および栄養管理の実践に適用できる。
- ・栄養学の専門分野における課題について、適切な研究方法を選択し、研究成果としてまとめる事ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観を基盤にした倫理的な配慮を身に付ける。
- ・人間の「健康」と「生活」の支援に必要な学修を通して、地域の保健・医療・福祉の現状について議論できるだけの知識を身に付ける。
- ・グローバルな視点を持つこと、連携・調整を図ることの重要性を学ぶ。
- ・専門分野での実践と研究を支える科目を開設し、統計学や疫学の基礎理論を身に付け、主体的に探究し研究する方法を学ぶ。
- ・食品と栄養に関わる問題を解決するうえで必要とされる高度な知識を身に付け、研究専門分野への応用実践力を養う。
- ・栄養学の専門分野の知識を深め、それを応用し演習・研究を行い、自ら問題解決を行う能力と研究能力を養う。

4. 栄養管理学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

- ・専門的かつ高度な教育及び研究を通して栄養管理学の先端的および実践的な知識を身に付け、保健・医療・福祉に貢献できる。
- ・栄養管理学に関わる課題においてグローバルな視点を持って主体的に探究し、自立して研究を行うことができる。
- ・栄養学の専門分野における課題について、研究をとおして課題解決の方法を提示できる。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・栄養管理学に関わる先端的な教育および研究をとおして、社会に貢献できる卓越した能力を育成する。
- ・基礎系と実践系に体系化し、専門的かつ高度な研究を行い、自立して研究する能力を養う。



5. 大学院看護栄養学研究科のアドミッション・ポリシー

- ① 専門分野の発展に貢献したい人
- ② 高度な専門職業人として社会貢献を志す人
- ③ 人間として専門職業人としての高い倫理観を探究したい人
- ④ 専門的なコミュニケーション能力の向上を目指す人
- ⑤ キリスト教的人間観に基づく人間愛の実践を志す人

Ⅲ 大学院助産研究科

【ディプロマ・ポリシー】

分野（基礎・教育）ごとに所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに課題研究並びに最終試験に合格した者に助産修士（専門職）の学位を授与する。

修了時に以下の能力を獲得していること

基礎分野

1. 助産分野の実践において、根拠に基づいてケアを展開する能力
2. 助産分野のケア実践に必要な資源を活用・調整する基礎能力
3. 助産分野のケア実践に必要な多職種と協働・調整する基礎能力
4. 助産分野発展のためにリーダーシップを発揮できる基礎能力
5. グローバルな視野から、国内外の社会変化、助産分野の研究課題・動向を基に活動できる基礎能力
6. 本学の教育理念に基づく高度な職業倫理観を備え行動する能力

教育分野

1. 助産分野の実践において、根拠に基づいて指導・ケア展開する能力
2. 助産分野における高度実践能力を遂行するために必要な指導能力
3. 助産分野のケア実践に必要な多職種と協働・調整する能力
4. 助産分野の教育・指導者として、後輩を育成し、自らも成長していく能力
5. 助産分野発展のためにリーダーシップを発揮できる能力
6. グローバルな視野から、国内外の社会変化、助産分野の研究課題・動向を基に活動できる能力
7. 本学の教育理念に基づく高度な職業倫理観を備え行動する能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）】

助産の高度専門職業人並びに助産の教育者を養成するために、助産基礎分野、助産教育分野を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

基礎分野

1. 豊かな人間性と人間関係能力を持ち、女性のリプロダクティブ・ライフを自律して支援できる高度な専門職業人、助産師に必要なとされる科目を提供する。（基礎科目）
2. 助産師として、生命の始めから人間の存在に畏敬の念を持ち、対象理解に基づくケアを探求する科目を設置する。（基礎科目）
3. 妊娠期、出産期、産褥・新生児期、育児期の母子に起こる心身の仕組みを理解し、自然の機能を最良の状態で発揮できる援助に必要な科目を設置する。（実践専門科目）

4. 情報収集から分析、問題解決の過程を論理的に思考する科目および臨床実習を通して、助産学の理論を実践行動に統合する科目を設置する。(実践専門科目)
5. 女性のライフサイクルにわたる健康問題を地域及びグローバルな視野を持って支援できる科目を設置する。(発展・展開科目)

教育分野

助産教育分野では、既習の助産の理論と実践能力に基づいて、自らの助産の基本を再構成し、助産師を目指す学習者の支援に必要な教育指導の知識、技術、態度を学習する科目を設置する。

【アドミッション・ポリシー】

基礎分野

1. 「愛をとおして真理へ」という建学の精神のもと、女性を支え、生命を育む助産師を強く希望する人
2. 論理的思考ができる人
3. 主体的に学修する意欲を備えた人
4. 人間理解の基、共感的関係性が持てる人
5. 助産師としての実践能力の取得と自律を志す人
6. 社会の変化に対応でき、さらに変化を発展させる意欲を持っている人

助産教育分野

1. 「愛をとおして真理へ」という建学の精神のもと、女性を支え、生命を育む助産師育成を希望する人
2. 論理的思考ができる人
3. 主体的に学修する意欲を備えた人
4. 人間理解の基、共感的関係性が持てる人
5. 自らが助産実践能力を備えており、優れた助産師育成を志向する人
6. 社会の変化に対応でき、さらに変化を発展させる意欲を持っている人
7. 後輩の成長・発達を促し、支援することに意欲を持っている人